

ブルーベリー栽培方法

植えつけ11月～12月
3月

1 栽培適地

ハイブッシュ系は耐寒性が強く、北海道中部から本州各県、九州の準高冷地など、比較的冷涼な地域で栽培されています。ラビットアイ系は、耐寒性が弱いため、関東北部から西南暖地で栽培されています。これは、営利栽培の場合なので、家庭園芸ではこれを参考にし、栽培地域はもっと広がります。

果樹園では『柵井ドーフィン』を一字一文字仕立てで栽培していますが、一般家庭には不向きです。

いずれの品種も支柱を1本から3本くらいにし、防鳥や収穫のことを考え、枝は高くしないように誘引し、やや横張りに仕立てるのが無難です。

2 土壌

酸性土壌を好みます。最適な土壌酸度は、ハイブッシュ系ではpH4.3～4.8、ラビットアイ系はpH4.3～5.3で、とくにハイブッシュ系はふつうの土壌では育ちません。鉢植えなら、ピートモスと鹿沼土を半々程度に混ぜて用います。露地植えでは、ピートモスを深さ30～40cmくらいにすぎ込みます。根が浅いので、土壌の乾燥には弱く、とくにハイブッシュ系では注意が必要です。

3 施肥

石灰質肥料はさけます。土壌のpH値が高くなると、鉄分などの欠乏症(葉に黄色のしま模様が出る)が出やすくなるからです。この場合、硫安(硫酸アンモニウム)を施すと症状が軽くなります。ただ、硫安は一気に溶けやすく、根を傷めますから、一度に多く与えずに注意が必要です。

4 結実の確保

1品種でも結実します。ただ、十分に結実させるには、異品種との混植、または接ぎ木が必要です。また、昆虫の飛来が少ないところでは、結実させるのに人工授粉が効果的です。

5 増やし方

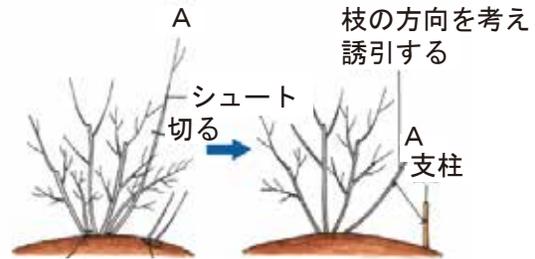
挿し木が一般的で、休眠枝挿しと緑枝挿しがあります。休眠枝挿しの方が簡単で、せん定枝を長さ8～10cmくらいに切り、鹿沼土1：ピートモス1の用土に挿します。鉢土が凍らなければ、挿し木はいつでもできます。

6 整枝・せん定

株立ちになる種類に共通していえることですが、株が込み合ってきたら、古い弱った枝を間引き、若い枝を残すようにします。

●冬のせん定

株が込み合ってきたら、衰弱枝を基部から間引き、シュート(株元から出た強い側枝)を切り戻す



弱い枝は切る サッカー
(地下部から出た芽)はのぞく

株が込み合ってきたら、衰弱枝を基部から間引き、シュート(株元から出た強い側枝)を切り戻す

●夏のせん定

サッカーの処理
小さいうちに取
り除く

シュートの処理
たくさん発生すると株が衰弱するので
不要なものは基部で切る
樹高を押さえたい場合はシュートが20
cmくらいに伸びたら適心する



7 結果習性

花芽の間引き
細い枝に花芽がたくさん着いていたら、
4～5芽くらい残して切る

